

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うらおいにぎわいのある親しまれる港づくり		2年度事業・施策評価結果		責任者 建設部 総合開発課長
施策名	にぎわい創出に向けた再開発の推進		成果	コスト	
事務事業名	ガーデンふ頭再開発の推進		継続	維持	維持
目的	対象(誰・何を)	ガーデンふ頭			事業期間 平成22年度～
	意図(どういう状態にしたいか)	みんなが楽しめる賑わい空間の形成、ゆったりと過ごせるくつろぎ空間の形成を目指す。			
概要	「ガーデンふ頭再開発基本計画」に位置付けられている「にぎわいの創出」と「くつろぎの場の提供」の実現のため、名古屋港水族館の集客力強化や緑地・広場の機能向上などについて、民間事業者への意見聴取を行うとともに、国や港湾関係者との合意形成を図りながら、再開発の基本的な内容を具体化し、再開発の実現に向け取り組む。				根拠法令等
令和3年度の実施予定	感染症の影響による社会経済情勢の動向やガーデンふ頭のにぎわいの回復状況を注視し、民間事業者との意見交換を継続しながら、ふ頭全体の一体開発に限らず事業化の見通しを探っていくとともに、開発エリアの確保に向けた関係者との調整を進めるなど、再開発の基本的な内容の具体化に取り組む。				実施義務
					関連シート

2 DO(実施)

令和3年度に実施した内容・結果	社会経済情勢の動向等を注視し、民間事業者と意見交換を継続しながら事業化の見通しを探るとともに、開発エリアの確保に向けて、港湾業務機能の移転のための関係者との調整していく中で、建物1棟について移転補償契約を交わし撤去が完了するなど、再開発の基本的な内容の具体化に取り組んだ。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	合計	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	19,624	10,609	109,000	139,233	令和3年度までの総事業費：438,723千円 港湾業務機能の建物1棟の移転補償を行ったため前年度に比べ増額となっている。
人件費	千円	34,403	34,345	29,250	97,998	
合計	千円	54,027	44,954	138,250	237,231	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因	
ガーデンふ頭再開発の進捗状況(全3工程) (進行管理型)	目標	1	1	2	3	以下の項目のうち完了した工程数 ①基本計画の策定 ②基本的な内容の具体化 ③事業者選定・事業化	感染症	
	実績	1	1	1				
	事業進捗状況(3年度)			順調・やや遅れ				遅れ
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	目標					再開発の事業化については、民間事業者から感染症の影響について「経済情勢を見極めるための時間が必要」との意見を伺っており、再開発の民間事業環境は厳しい状況となっている。また、開発エリアの確保に向けては、港湾業務機能の建物1棟の撤去が完了するなど、関係者との合意形成に向けた調整や各種検討に取り組んだが、今後も引き続き調整等に時間が必要な状況となっていることから、成果目標の見直しについては、諸条件が整い次第検討を行う。		
	実績							
	事業進捗状況(3年度)			順調・やや遅れ・遅れ				
必要性・有効性・効率性の検証	評価に関する説明							
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？	○	港のにぎわいの創出に向け、ガーデンふ頭は親しまれる港づくりの拠点として再開発を推進していく必要がある。また、県民・市民からのニーズも高く、再開発を実施していく必要がある。					
有効性	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっていないか？	○	ガーデンふ頭を再開発することによって、更なる魅力ある港湾空間を形成することができ、にぎわいの創出につながると考えている。					
効率性	期待どおりの成果が得られているか？	△	感染症や調整状況によって目標に達成することができなかった。					
効率性	最小のコストとなっているか？	○	最小コストで事務を行っている。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	4年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	3年度の状況は「遅れ」となったが、感染症の影響による生活様式などが変化している中でも再開発を着実に進めていけるよう民間事業者と調整を図っているとともに、事業化の見通しを探っていくことから、今後の成果は「維持」とし、コストも「維持」とする。
課題		取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	
課題		4年度以降の取組	
再開発の推進に際しては、感染症の影響を注視していく必要がある。また、再開発を着実に進めていけるよう検討していく必要がある。併せて、開発エリアの確保に向けて関係者との調整を進めていく必要がある。		引き続き、民間事業者と意見交換を継続しつつ、社会経済情勢の動向や感染症の影響により生活様式が大きく変化していることから、様々な観点から再開発の実現に向けた方向性を検討していくとともに、開発エリアの確保に向けた関係者との調整を進めるなど、再開発の実現に向け取り組む。	

1 PLAN(目的・概要)

政策名	環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり			2年度事業・施策評価結果		責任者 建設部 金城・中川・南5区担当 課長	
施策名	にぎわい創出に向けた再開発の推進			成果	コスト		
事務事業名	中川運河にぎわいゾーンの魅力向上			継続	維持	維持	
目的	対象(誰・何を)	中川運河の北幹線・北支線・東支線				連絡先	052-654-7978
	意図(どういう状態にしたいか)	ささしまライブ24地区の開発などと連携し、都心地域に集まる人びとが訪れたいくなるような「港と文化を感じる都心のオアシス」の形成を目指す。				連携課	環境担当、事業推進課、管財課
概要	「中川運河再生計画」で位置付けられている「にぎわいゾーン」において、護岸の老朽化対策及びプロムナードの整備を行い、東支線においては、護岸補修及び遊休地の有効活用を図るとともに、水質改善に向け覆砂による底層改善に取り組む。					根拠法令等	事業期間 平成30年度～
令和3年度の実施予定	地域の理解を得ながら、護岸の改良・補修の実施、プロムナード及び視点場の整備、東支線において覆砂の実施を予定している。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連シート	

2 DO(実施)

令和3年度に実施した内容・結果	老朽化した護岸の改良・補修を実施するとともに、プロムナード整備に向け関係者との調整を行った。また、東支線では、運河を眺められる視点場の整備を実施するとともに、底層改善に向け覆砂の工事に着手した。					
コスト	単位	元年度	2年度	3年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	196,361	188,362	378,435	254,386	令和3年度は、前年度に比べ老朽化した護岸改良工事箇所が増加したこと、東支線における覆砂工事に着手したこと等から事業費が増加した。
人件費	千円	17,431	17,431	17,100	17,321	
合計	千円	213,792	205,793	395,535	271,707	

3 CHECK(検証)

成果目標名	元年度	2年度	3年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
中川運河覆砂進捗状況(全4工程)	目標	1	2	3	4	東支線における覆砂の実施において①現況調査、②設計、③工事着手、④整備までの工程	
	実績	1	2	3			
(進行管理型)	事業進捗状況(3年度)			順調・やや遅れ・遅れ			
護岸補修延長(全1,100m)	目標	350	600	850	1,100	東支線における既設護岸の補修延長(※最終年度は、令和4年度とします)	
	実績	500	500	850			
(進行管理型)	事業進捗状況(3年度)			順調・やや遅れ・遅れ			
プロムナード整備延長(全2,320m)	目標	-	-	300	1,540	北幹線・北支線におけるプロムナードの整備延長(※令和4年度より整備予定)	関係者の意向
	実績	-	-	0			
(進行管理型)	事業進捗状況(3年度)			順調・やや遅れ・遅れ			
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	東支線における覆砂、護岸補修については、順調に進捗している。プロムナード整備については、関係者との調整に時間を要したため、施工には至らず、進捗が遅れているが、調整の結果、令和4年度に着工できることとなった。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組が関与し、どうしてもやらなければならない事業か？	○					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっていないか？	○					
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか？	○					
	期待どおりの成果が得られているか？	○					
効率性	最小のコストとなっているか？	○					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	4年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	中川運河にぎわいゾーンにおいて、良好な水環境の創出や回遊性の向上を図ることにより運河の魅力向上を推進していく必要があるため。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題	4年度以降の取組		
水環境の改善や護岸の老朽化対策等を進めるとともに、回遊性向上に向けたプロムナード整備については、関係者との調整を踏まえ、促進していく必要がある。	引き続き、覆砂、老朽化した護岸の改良・補修、視点場の整備を進めるとともに、プロムナード整備に着手する。		